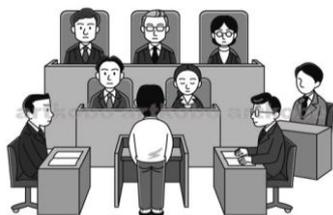


# 3年道徳 死刑と無期懲役



「死刑はあった方がいいか」という問いには答えられません。いくら重い罪を犯した人でも、人の命を奪うことは残虐だし違和感を覚

えます。でも、被害者側に立って考えると、大切な人を傷つけたり殺した人を許せない、生きていてほしくないと思うのは当然だと思います。だから、どちらの立場で考えるかによって答えは変わってきます。日本全体で考え、1人1人が意見を持つことが大切だと考えました。犯罪がないより良い社会になるために。(神尾美結)

とても難しい内容でした。何人もの人を殺したり、倫理的にやってはいけないことをやった人が死刑になるのは賛成です。でも、良心が残っている人は無期懲役にし、人を助けるための活動を行った方がいいと思います。死刑になる人は何人もの人を殺しているのだから、その人が1回死ぬだけでは罪を本当に償ったことになるのかは疑問です。1回以上死ぬことは無理なのですが、3人殺したなら3回死なないと、罪を完全に償ったことにはならないと思います。だからといって、無期懲役で死ぬまで償わせることも少し違うような気がします。(東海林隆磨)

「死刑」や「無期懲役」について深く考えたことはありませんでした。今までは、「なぜ殺人をしておいて、犯人はまだこの世に生きていられるのだろうか」という考えでした。家族、友達、知人がもし殺されたら、私は犯人の死刑を強く願うだろうと思ったからです。十数人の意見を聞き、「死刑にされたら何も残らない」「無期懲役とは何が違うのか」「地下労働やボランティアをさせる」などいろいろな意見が聞けて、1つ1つの意見に「なるほど・・・」と思うことばかりでした。正直、たくさん考えが変わって、最終的な自分自身の結論はまだ出ていません。難しい話でしたが、大人になり日本に生きていく私たちにとって、考えなくてはならない問題だなと思いました。「法律って深いなあ・・・」と感じた時間でした。(脇 美月)

法は人を守るためにあると思います。犯罪者であってでもギリギリまで法律で人権を守り、生かしてくれるはずですが、でも、人を守ることに限界があると思います。限界を超えるほどの重い罪(殺人など)を犯したら、償いとして命を絶つのが犯罪者にとっても被害者やその家族にとっても、よくはないけどよいと思います。死刑や無期懲役といった刑があるのは、死ぬためではなく、死なないように生きてほしいという警告というか、大きく言って神様からの願いではないでしょうか。“死ぬ”ことではなく“生きる”ことを目標に・・・。(阿部 苺香)

仲間と話し合うことの大切さを学ぶことができた。受験シーズンの終盤、勉強に関係の無いことをするのに罪悪感を感じていた。テレビを見ているときでも、心のすみで「受験生なのに、何してんだ。」という気持ちだった。そんな中、校長先生の道徳のおかげで、受験のことを気にせず楽しく友達と話し合い、考えを深めることができた。(横尾啓斗)